

騙しとウソ、不正直、欺瞞、二枚舌と二重取引の達人たち

<http://stateofthenation.co/?p=191594>

SOTN | Patrick J. McShay

October 17, 2023



SOTN 編集者ノート：現在、シオニスト-イスラエル国家とその周辺で、大規模なテロ攻撃が、モサド-CIA-MI6 テロ犯罪集団によって行われているが、これに対し、極めて抑圧され虐げられたパレスチナ人たちが、極端に自暴的な行動に打って出ている。しかし最近のハマスの〈急襲攻撃〉は明らかに、IDF（イスラエル防衛軍）とイスラエル諜報部の指令の下に実行されたものである。次の論文は、密かなイスラエルの行動を、アパルトヘイト・イスラエル国の初期の段階から、詳細に説明している。現代イスラエル国は、常にならず者国家であり、中東全体を通じて、混沌、混乱、それに紛争の種を意図的に撒き散らす態勢を取っていた。このごく最近の、イスラエル人とパレスチナ人双方に対するニセ旗テロ作戦は、それを証明する。にもかかわらず、この民主主義国家を装

う国家そのものが、国際的な犯罪シンジケートであり、臓器取引、麻薬取引、人間取引、武器や核兵器取引を行うグローバルな本部としてのこの国は、これまでに例のないほどの正体をさらけ出した。現在行われているパレスチナ人虐殺と、ガザの土地略奪から考えれば、袋から飛び出した猫はもう元へは収まらないであろう。

ガザにおけるシオニストの騙しと地政学的火薬樽

ガザの国境で起こったことを正確に語るには時期尚早かもしれない。しかし私は、メディアの報道していることは、ナンセンスだと確信している。これは明らかに、イスラエル人によって長く計画されていた出来事だった。我々は死者の数を何日も続けて聞かされ、首を切られた 40 人の赤子を初めとする、残虐が行われているから、次の虐殺に用心せよと言われた。彼らは現実に、生まれてからずっと洗脳されているアメリカ人が、イスラエルを支持するように仕向けているようであり、計画された彼らの地上戦と虐殺が、次の数日に始まる予定のようで、すでに国境線に 30 万の軍隊が集結していると教えていた。あたかもイスラエルは、事前に攻撃の時間を知っていただけでなく、彼ら自身が巻き込まれているかのようだった。これは、このイスラエルのプロパガンダを、真実と思っているナイーブで無知な Fox News 視聴者には、ショックだったかもしれない。

次の引用は、ワシントン・ポストからのものである：――

「安全保障の専門家は、この戦争は、情報と軍事の甚だしい失敗の結果だと言っている。ハマスとイスラム聖戦の戦士たちは、イスラエル国境近くで何週間もずっと訓練していたのだ――ロケット砲の発射、兵士たちの誘拐、それに「村落の急襲」などの訓練…

イスラエル防衛軍軍事情報局の元局長 Aharon Zeevi Farkash は、イスラエルのラジオ局 Reshet Bet に対し、こう語った――「このことが調査できるようになったら、我々はほとんどすべてを知っていたことがわかるだろう。何時間も前から情報アセスメントがあったのだ。問題は、我々が知ったことを理解したか？ ということだ。」

AP 通信の報道によると、ガザ国境の一部を掌握しているエジプトが、繰り返しイスラエル情報部 The Mossad に対し、「ハマスが何か大きなことを計画している」と警告していたという。

リークされたフィルムがそれを物語っている。シオニストたちは、いつでも自分たちが被害者だというのが、実は彼らが犯行者である。Fox News に出た、首を切られた赤ん坊の報告は、イスラエル人が現実に起こしたガザの流血にとって十分なものだが、我々は以前に、

赤ん坊への残虐行為が公衆の怒りを引き起こしたが、それは偽ニュースだったという、センセーショナルな物語を聞いている。第一次大戦のプロパガンダは、ドイツの兵士たちが女性を暴行し、幼児を銃剣で刺し殺したという物語を描いたが、これが 90 年代初期のイラク侵略につながっていった。イラクの兵士たちが虚偽の非難を受け、病院の保育器から幼児を奪い、床に放り投げたと言われた。(訳者：この作り話は湾岸戦争のとき、ブッシュ父大統領が堂々と議会で報告していた。)

メディアは、首を切られた幼児についてのイスラエル人の主張に、懐疑的でなければならない。なぜなら、Karine Jean Pierre も国務省代弁者のジョン・カービーも、こうした報告の信憑性について何度も質問し、イスラエル人がその出所であることを確かめたからである。この話は、素朴さと無知からイスラエルの報告を信ずるアメリカ人は、心得ておいていただきたい——イスラエルのモサドのモットーは、「戦争は騙すことによって行われる」と言っている。

参考ビデオ「CNN のニセ旗がビデオに捕まった」:

<https://www.bitchute.com/video/6OMkzHeLILxY/>

ハマスの行動によって、ガザの 200 万人全員を集合的に罰するのは、イスラエル人の好む楽しみである。2014 年、「エルサレム・ポスト」の 2 人の記者が、イスラエルの年中行事である、パレスチナ人口を減らすための攻撃を「芝生の草刈り」だと言った。今年は彼らの草刈りは、近隣全体に及ぶのではないかと思う。

現在、ガザは完全に閉鎖されている。電気も水道もなく、食べ物も燃料もない。彼らの住居や商店の建物はイスラエルの爆弾と、国際的に禁止されているがイスラエルの好きな、白リン弾によって攻撃叩かれている。イスラエル議会の一人の議員は、ガザを核攻撃せよという馬鹿げた提案をした。主流メディアはこれを全く公表しようとしなない。

ネオコンのニッキ・ヘイリーが、昨日、フォックス・ニュースに、「これはただのイスラエルに対する攻撃ではない、アメリカに対する攻撃だ」——そんなことはない——と語り、彼女はさらに、イランがこの攻撃の背後にあると言い、ビビ・ネタニヤフに対して「彼らを片付けよ」と息巻いた。リンゼイ・グレアムは、イラン内部のインフラを爆破すると脅迫している。こうした人々は危険人物で、大きな紛争になれば、この経済は完全に破壊されるだろう。ニッキ・ヘイリーは、ホワイト・ハウス近くのどこへも近づけてはならない。

我々はこの攻撃の結果、多くのことを学んだ。イスラエルの誇る「鉄ドーム」ミサイル防衛装置は欠点があり、効果がないことを露呈した。(数行省略)・・・

狂信的なシオニストたちは、自分たち自身を裏切り、犠牲にするという歴史を持っている。
歴史家の Henry Makow はこう書いている：——

1940年11月25日、ナチのヨーロッパからの亡命者たちを乗せたユダヤ人の船 The Patria 号が、パレスチナの沖合で爆発し沈没して、**252名の人々が死んだ**。

シオニストの Haganah (ユダヤ秘密軍事組織) は、これは乗船者たちが船を爆破させたもので、イギリスが彼らを上陸させないことに抗議するためだった、と主張した。何年かして Haganah は、乗客たちをモーリシャス島へ送るよりも、そのプロパガンダ価値のために、この船を、**彼らが爆破させた事実**を認めた。

「時には、多数者を救うために、**少数者(?!)**を犠牲にしなければならない場合がある」と、元イスラエル首相 Moshe Shonfeld は、1958年、パトラ慰霊祭で話した。

その著 *Holocaust Victims Accuse*, 1977 (ホロコーストの犠牲者は告発する)で、ラビでもある元イスラエル首相 Moshe Shonfeld は、シオニストたちが、ナチのヨーロッパ・ユダヤ人殺しに協力したことを非難し、多くの指導的立場にあるユダヤ人が、仲間のユダヤ人を再三にわたって裏切ったと指摘した。そして数万の投獄されているユダヤ人を、支払いによって解放することを、拒否さえした。ショーンフェルドは、このねじ曲がった狂信的な考え方を説明して言う、「シオニストの、ユダヤ人の血はユダヤ国家を回転させるために必要な聖別の油だという考えは、過去のものではない。それはまさに今日に至るまで生きて活動している。」

もし私がイスラエルのユダヤ人なら、これは私の神経をひどく苦しめるだろう。

*ラビのワイスマンデルは、当時スロバキアにいたが、アウシュヴィッツの地図を送ってユダヤ人指導者に懇願し、同盟国がトラックや火葬場を爆撃するように圧力をかけた。指導者たちは同盟国に圧力をかけなかった。その理由は、彼らの秘密の政策は、**シオニストでないユダヤ人を撲滅すること**だったからである。

*1960年代に、ユダヤ人哲学者のハンナ・アーレントは、ひどく非難され村八分にされたが、それは彼女が「ほとんど例外なく、ユダヤの指導者たちはナチスに協力していた」と主張したからである。

*それが、ゼレンスキー氏が、ウクライナのナチ集団とあれほどウマが合う理由だろうか？ (訳注：ゼレンスキーはユダヤ人)

私は報道記者の Noor Harazin のような人々に従っているが、彼はガザに住み、何年も現地の報道を行っている CGTN ネットワークの記者である。彼は胸の張り裂けるような物語を提供し、不潔な環境にあって、残酷なイスラエル体制によって絶えず攻撃され、日毎に希望を失い、自暴的になる民衆とともに生きる様子を報告している。ハラジンはこう言っている：――

「私を前進させ、危険な仕事の条件を受け入れさせているものは、私のジャーナリストとしての、今ここで起こっていることへの責任感であり、ガザ地区での英語のニュース報道がないという理由もある。」

真理を報道するジャーナリストの責任は、アメリカのどこにあるだろうか？ ガザで私の従っているもう一人の記者は Rasha Abou Jalal で、彼女は 2021 年に、あるインタビューで、イスラエルの攻撃の後での経験をこう語った：――

「あるときは、私が 10 人の子どもと 12 人の女性を含む、42 名の死亡者について物語を書いているとき――それはただ一度のイスラエルの攻撃で、5 月 16 日に、中央ガザ市の Wehda 通りが襲われたものだが――私は涙が止まらなくなり、キーボードが濡れてしまった。3 人の子どもと少女の物語（名前省略）は、いまだに私の心に刺さったままで、私はずっと考えている、〈こういうことが起こってはならない〉。

こうしたイスラエルの攻撃は、毎年増え続け、今は、イスラエル人たちのほぼ 20 倍のパレスチナ人が死んでいる。この現実を説明する主流メディアの現地の取材はなく、パレスチナ人はモンスターとして、イスラエル人は不意を襲われた被害者として描かれている。真実は、ガザは、地球上最大の強制収容所だということである。

ネルソン・マンデラは、イスラエルのアパルトヘイトは、南アフリカと変わらずひどいものだと言った。彼の孫息子が 2019 年にそこを訪れ、これはもっとひどい！と言った。その悪臭を放つ水は人間には適さず、電機はよく言っても、所々しかない。彼らは絶えず監視下に置かれた囚人のようで、自由人とはとても言えない。

イスラエルの防衛長官 Yoav Gallant は、パレスチナ人を「動物たち」と呼び、その 200 万人が食料と水と燃料を失うだろうと言っている。ユダヤの聖なる書「タルムード」は、すべての非ユダヤ人を動物と呼んでいる。ここにパターンが見えてくるだろう。これは長年にわたって計画されていたアジェンダなのだ。「Koenig 報告」は、1976 年から続く、秘密で内部のイスラエル政府文書である。これは誰が見ても、イスラエル人によってパレスチナ人に向けられた脅迫であろう。

「我々は、ガリラヤ地方からアラブ人種をなくするために、テロ、脅迫、土地の没収、それにすべての社会的サービスの取り上げを、用いなければならない。」——The Koenig Report

現在、何が起きているかを本当に理解するために、理解しなければならないのは、Oded Yinon の 1982 年の対中東計画、Greater Israel (拡大イスラエル計画)、それにジェブ・ブッシュ、ディック・チェイニー、ドナルド・ラムズフェルド、その他の指導する、ネオコン・グループの「新しいアメリカの世紀計画」(PNAC) である。彼らは、ブッシュ政権として誕生した「イスラエル・ファースト」グループに属し、1998 年に、ビビ・ネタニアフのために「白書」を起草し、イスラエルは、土地と平和を交換する過去の習慣はやめるべきだと言い、それは時間と資源の無駄遣いだとして、より敵意ある攻撃的なアプローチを提案した。

彼らは土地を「盗む」ことを求めた。それは彼らが政権交代や、何百万という人々の「民族浄化」を通じて求めてきたもので、これは大きなパラダイム・シフトや、彼らが「新しいパール・ハーバー計画」と呼ぶ、9・11 のような事件が必要で、それが起こるとすれば、彼らの計画した土地盗みやジェノサイドが、キッカケとなって起こるだろう。もしあなたが、イスラエルが 9・11 の背後にあったことを疑うなら、ビデオ「**9・11：失われた環**」をご覧くださいとよい：<http://realdocumentaries.com/9-11-missing-links-full-documentary-on-the-israeli-mossad-involvement-of-9-11/>

イスラエルは国境を持たないが、それは彼らがいまだに、パレスチナとシリアを活発に盗みつつあるからである。私には、こういう事件が今起こったのは、イスラエルがパレスチナ人を殺し、より多くの土地を奪うように、初めから調整され仕組まれていたからだと思える。そうでなかったら、こんなことは起こらなかったであろう。彼らはすでにレバノンの都市を攻撃しつつある。彼らは、レバノンがこうした最近の攻撃に含まれている証拠を、少しでも見せたことはない。しかし彼らは、長年の間、南レバノンの Litani 川の、喉から手が出る水資源に目を着けていた。そしてレバノンは、PNAC 文書において、イスラエルが欲しがり、政権交代の目標となる予定の国の一つだった。

イスラエルが関与しているとき、地政学的出来事が、表面上そう見えるようなものでは、めったにない。元イスラエル情報高官の Efrat Fenigson は、公的な物語を買わず、「この急襲攻撃は、どこから見ても、計画された作戦にしか見えない」と言った。親ハマスのラリーは、アメリカ全体で行われており、アメリカは 300 万以上のムスリムを入国させた——たいていは合法的に。そして我々は、彼らが長年にわたって、南方国境を無法に超えていることを知っている。これはアメリカに、何らかの突然のジハード（聖戦）を起こさせるだろうか？ イスラエルは戦争を勃発させ、アメリカに始末させるわざ長けている。

ウソを聞かされている善良な人々は、恐るべき行動を起こす可能性がある。イスラエルはどちらの側の死傷者をも意に介することはなく、目的はいつも手段を正当化する。テロに対するこの戦争はウソの山の上に築かれていて、それは9・11攻撃やAbu Ghraibの拷問（イラク戦争での虐待事件）から、ファルージャをせん滅させ、国際的に禁止された白リン爆弾、さらにイラクで使われ、今はウクライナで使われている劣化ウラン弾頭まで、どこまでも続く。

イスラエルはアメリカを、何十年間にわたる征服、死、破壊の聖戦に引き込んできたが、このサイクルは終わらなければならない。何よりも先に、我々は今、このサイクルを十分に打ち砕いてくれる大統領を必要としている。

[訳者 Greatchain 注]

このやや長い論文には、おそらくほとんどの人の知らなかった、蒙を啓かれる情報に満ちている。ガザでの紛争は始まったばかりで、確かなことは言えないと論者は言うが、ここで説明されるイスラエルとパレスチナの関係と、その近年の歴史から、我々はかなりのことが見えてくるのではないだろうか？ このあたりのややこしい話を敬遠していた人もあるだろう。いずれにせよ、事実に基づかず、好みによって歴史を勝手につくるやり方は、フェイク・ニュースだけにしたいものである。

イスラエルと言えば、まず「シオニズム」というものが問題になる。これは、ユダヤ人の国家をエルサレムに建設しようという、壮大な民族運動であるが、そこには「温度差」というべきものもあり、そもそもそれが運動として善なるものか悪なるものかという、疑問が生じてくる。そこで、この論文を読んでまずわかることは、ユダヤ人の全体が「シオニスト」ではないということである。シオニストは少数者であろう。しかし彼らは過激というか狂気というか、普通の人からかけ離れている。私はその異常さをこの論文で知った。特に彼らのナチスとの異常な、信じられない関係に注目すべきである。

もう一つ、シオニストと言えば Zion-Anglo-American（シオニスト-アングロ-アメリカン）と連語で呼ばれることがあり、イスラエルのシオニストが英米人エリートと、密かに連携するケースが知られている。そして、何と彼らは「エリート」としてナチスにもつながっている。そしてこの者たちは、ほとんど地球外人種のように、「9・11 テロ」と現在の「ガザ・テロ」を、一本の太い鉄棒で繋げている。私はこの論文でその謎が解け、世界がよりよく理解できるようになった。これを馬鹿げた妄想だという人があるだ

ろう。しかし今、世界がそういう恐ろしい局面に入りつつあることは、否定できないだろう。